

傷寒・金匱方劑解説 58 きー10

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
	傷寒論・金匱要略条文	読み および解説・その他
きー10	橘皮湯	<p>橘皮（辛温）4g・生姜（辛温）8g 上の2味を水280mlを以って煮て120mlとなし、滓を去り40mlを服用する。湯が咽を下ると癒える。</p> <p>嘔吐噦下痢病脈証併治第十七第24条（金匱要略）</p> <p>「^{かんおうえつ}乾嘔噦、^{もし}若くは手足厥する者、橘皮湯之を^{つかさど}主る。」</p> <p>解説 吐き気だけがあつて、物は吐かず、一緒にシャククリを發し、手足が冷たくなる者には、橘皮湯が主治する。 橘皮湯は、橘皮・生姜で胃の陽氣を助け、寒氣の上逆を止める。手足は脾胃の主るところで、胃の陽氣が發達すれば四肢厥冷も治る。</p> <p>橘皮湯証 新古方薬囊によれば「嘔き氣と一緒にシャククリを發し、手足俱に冷たくなる者。此の場合、但嘔き氣のみありて物は吐かざるもの也。」と記されている。</p>